
令和3年

7月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下10農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

ぎふ農業・農村を支える人材育成

中濃農林■岐阜県農業担い手リーダー 退任の感謝状贈呈式と新任の認定証交付式

中濃農林事務所は6月29日、農林事務所長室において、令和2年度をもって退任した指導農業士への感謝状贈呈式及び令和3年度新しく青年農業士となる認定証交付式を行った。今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、県全体での式典は行われず、担い手リーダーの地元での行事となった。

退任した指導農業士に対し農林事務所長から県の感謝状と記念品、武儀地区指導農業士会長から県指導農業士連絡協議会の感謝状を手渡し、15年間の指導農業士の任務を労った。また、新しい青年農業士に農林事務所長から認定証とバッジが手渡された。最後に2人からそれぞれの担い手リーダーへの想いを話してもらい、先人が積み上げた施設園芸の産地が順調に世代交代されている状況を再確認した。



【贈呈式の後の集合写真】

揖斐農林■かき・いちご・DX農場技術習得グループ 農業DX化スタートアップ研修を開催

7月6日に、農政課主催の農業DX化スタートアップ研修がオンラインにて開催され、サテライト会場のJAいび川大野営農経済センターでいちご及びかきの生産者が受講した。

揖斐管内ではいちご生産者3名、柿生産者3名が環境モニタリング装置の設置を計画しており、データ収集と分析により栽培改善等に繋げていくことを目的に普及課が支援している。研修にはいちご生産者3名、かき生産者11名が出席し、植物の栽培環境及び植物生理を中心とした講義があった。また、機器を使用して環境のモニタリングを行っていく上での注意事項等について説明があり、出席者は理解を深めた様子であった。

今後、今回の講義内容を参考により効果的な方法で環境モニタリングを実施していけるよう支援を行う。



【研修会の様子】

郡上農林■スマート農業 出荷目揃会にてウェアラブルカメラによる作業動画を紹介

7月13日、郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会は郡上総合庁舎にて出荷目揃会を開催し、関係者を含め約40名が参加した。

目揃会では全農、市場関係、JAめぐみのからの情勢報告の後、本年度の出荷規格等を確認した。農業普及課からは農業のDX推進に向け、新たな試みとして部会員が装着したビデオカメラ（ウェアラブルカメラ）による収穫作業の動画を紹介した。栽培規模の大きい部会員が効率的に作業するために行っている畝幅の調整や、片側の畝を先に収穫する等の工夫を、動画によって具体的に示すことができた。

参加者の関心も高かったことから、今後は他の作業動画も撮影し、作業手順や効率化を検討する手段として活用する。



【作業動画のワンカット】

恵那農林■クリ クリ新規栽培チャレンジ塾がスタート～第1回、第2回を開催～

東美濃クリ地産地消(商)拡大プロジェクト活動における担い手育成対策の一環として、本年度の「クリ新規栽培チャレンジ塾(年6回)」が始まった。本塾は、クリ生産者の技術支援や参加者間の仲間づくりを目的に、栽培の基本や一年間の作業の流れを学ぶ機会として、東美濃栗振興協議会が主催し開催している。

コロナウイルス感染拡大防止のため、時間を短縮して屋外で講義を行うこととし、第1回は6月27日に中山間農業研究所中津川支所で、第2回は7月11日に坂下地区下原団地で開催された。



【第2回チャレンジ塾】

第1回は7名が参加し、当地のクリ栽培の概要や病虫害防除等について講義を行った。第2回は恵那農業高等学校の学生も参加し、計20名で夏季剪定の講義を行い、中山間農業研究所中津川支所の研究員を講師に実習を行った。今年度は協議会青壮年部会員も参加して実習での指導や補助を行い、参加者に部会活動をPRし、新たな部会員確保に向けた活動も展開することができた。

農業普及課は今後もチャレンジ塾の開催を通じて、新規植栽者や植栽開始予定者の技術習得を支援し、東美濃クリ産地拡大に向けて取り組んでいく。

下呂農林■農福連携 農業への障がい者就労の拡大を目指して

下呂市のトマト農家では、昨年度から市内の就労継続支援A型事業所から障がい者の派遣を受けている。今年度はB型事業所からの派遣も始まった。

当事務所では「夏季のトマト栽培の管理作業環境を理解してもらうため」、「派遣を受けるために必要なことを知るため」、「相互の理解を深めるため」に現地見学会と情報交換会の開催を8月に計画している。市内の複数の就労継続支援事業所ではネットワークを組織しており、7月14日にその定例の会議に出席し、市内のトマト栽培や昨年度からの農福連携の取り組みについて紹介、併せて8月開催予定の現地見学会等への出席を依頼した。

農業普及課では経営に必要な補助労力がなかなか確保できない現状を、福祉事業所との連携により解決し、トマト農家の売り上げのアップにつながるよう支援を継続していく。



【7月のトマトハウス内】

飛騨農林■指導農業士 経営能力の向上と岐阜県農政部長との意見交換～夏季経営研修会～

県は地域農業の振興、農村青少年の育成等を図るため、高度な技術及び経営能力を有する農業者を指導農業士に認定している。現在、飛騨地域では20名が認定されている。

7月13日、指導農業士会飛騨支部主催で「夏季経営研修会」を開催し、岐阜県農政部長をはじめ、指導農業士及び関係機関計30名が出席した。第1部の現地視察では、令和元年度に指導農業士に認定された3名（施設野菜2、肉用牛1）が各自の農場で経営概要を説明し、参加者からの様々な質問、意見交換を通じて、今後の農業経営にかかる情報共有が図られた。第2部の室内研修では、長尾農政部長から「岐阜県における農業振興について」と題して、ぎふ農業・農村基本計画を中心としたウェブ講演があり、飛騨地域の農業の課題解決に向けた意見交換を行った。

農業普及課では、今後も指導農業士活動の支援を行い、経営能力の向上や組織強化による産地の維持・発展及び新規担い手の育成を図っていく。



【農政部長ウェブ講演】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

革新支援センター■水稻 「トビイロウンカ」防除対策ウェブ会議を開催

昨年は県内各地でトビイロウンカによる坪枯れ症状が起り、大きな被害となった。本年は梅雨入りが早く、飛来予測システムで本県への飛来が予測されていた中、例年より早く誘殺が確認されたため、7月2日に農林事務所農業普及課担当者のウェブ会議を開催した。今年は病虫害防除所の調査に加え、各農林事務所農業普及課でも定期的な調査を実施し、発生状況を確認することとした。

また、トビイロウンカの注意報発出を受け、7月8日に農林事務所農業普及課、病虫害防除所、農業技術センターによる防除対策に関するウェブ会議を開催した。飛来予測や誘殺状況などから、早生品種、晩生品種それぞれの防除時期や、薬剤防除（箱施薬）未実施田等への対応をふまえた防除指導を実施していくこととした。

今後も発生状況を確認しつつ、関係機関と連携し注意喚起を行う。



【ウェブ会議の様子】

西濃農林■加工業務用野菜 キャベツ生産・出荷に係る意見交換会

(株)サラダコスモの野菜カット工場が養老町に建設され、昨年12月から稼働を始めた。JA全農岐阜を通じ西濃地域で生産された加工業務用キャベツが出荷されている。より多くの地元野菜を活用してもらうため、養老町はJAにしみの、JA全農岐阜、県関係機関、野菜カット工場関係者を参集し、7月14日に意見交換会を開催した。

当日は、各機関の現状や要望、確認したい事項について活発に意見が交わされた。工場の稼働直後は稼働率が上がらず、地元野菜の使用量が伸び悩んだが、現在は軌道に乗っており、今年産の取扱量増が期待される。農林事務所からは、JAにしみのと連携した作期分散・出荷の平準化のための品種試験計画等について説明した。

実需者からの期待に応えられるよう、今後も関係機関とともに情報共有を図りながら、加工業務用野菜の生産を支援していく。



【意見交換会の様子】

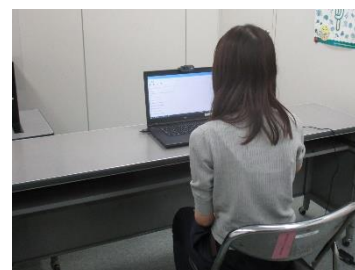
ぎふ農畜水産物のブランド展開

岐阜農林■花き 本巣郡花き振興会第34回通常総会をオンラインで開催

7月7日、本巣郡花き振興会第34回通常総会および情報交換会が新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインで開催され、会員や関係者など18人が参加した。

情報交換会では「新型コロナ後の花き産業の発展について」をテーマに活発な意見交換が行われ、今後の花き振興の参考となる「室内緑化」や「異業種交流」などのキーワードが出された。

初めて開催されたオンラインでの情報交換会は、いつもと異なり、新鮮だったとの意見も聞かれた。今後も農業普及課では本巣郡花き振興会の活動を支援していく。



【オンライン情報交換会の様子】

可茂農林■堂上蜂屋柿産地振興協議会 無人防除機による薬剤散布現地実証試験開始

堂上蜂屋柿は一戸当たりの栽培面積が少なく山間地での栽培であることから、スピードスプレーヤー等の機械防除を行う生産者は少なく、高齢化もあって動力噴霧器での防除も難しくなっている。そのため、堂上蜂屋柿産地振興協議会では産地振興対策の一つとして無人防除機による防除実証試験の1回目を7月12日に行った。

今回の実証試験で使用した機体はバッテリー駆動のリモコン式防除機で、100Lのタンクを備えている。機械散布を想定した剪定管理がされていないほ場のため、防除機の操作に苦労もあったが、従来のおよそ半分である10aあたり一時間程度で散布することができた。防除作業を見守った生産者は機械の能力を確認できた。

農林事務所では今後も定期的に機械散布を実施し、防除効果について追跡調査を行い、導入に向けて関係者と検討を進める。



【防除機とオペレーター】

東濃農林■ヤマゴボウ、水稻・大湫機械化営農組合 中山間農研中津川支所視察

大湫機械化営農組合では、数年前からヤマゴボウの栽培に取り組んでいる。しかし、発芽不良やとう立ちなど課題が多いため、ヤマゴボウの優良系統の栽培をしている中山間農業研究所中津川支所を訪問し、栽培状況や栽培方法を学んだ。

同営農組合の野菜栽培担当の3人を案内し、とう立ちしない系統の選抜方法などを学んだ。所内で6月に播種したヤマゴボウの発芽状況なども視察するとともに、試験田での新品種育成状況やスマート農業機器などの説明も受けた。

農業普及課は、今後も営農組織の新規作物導入支援を行っていく。



【ヤマゴボウ発芽状況説明】